

町医者だより

平成29年01月号

喉のイガイガと喘息

<発行・お問合せ先>

おおわだ内科呼吸器科

院長 大和田 明彦

市川市南八幡4-7-13

シャポール本八幡2階

JR本八幡駅南口(シャポール改札口)

2分ミスタードーナツ並び

ヘアサロンAsh向かいビル2階

電話 047-379-6661

おおわだ
内科
呼吸器科

実際に喘息の患者さんに接していると分かってくる場合があります。それは教科書に書いていないことがほとんどなのですが、その一つに喉トラブルがあります、喉トラブルが喘息の方に多いのです。喉がかゆい、喉に異物感がある、喉がふさがる、声がかれやすいなど色々な症状・表現がありますが、なんといっても喉の痛みや喉が荒れた感じのイガイガを多くの方が訴えます。そしてこの症状が出始めると咳や痰が絡みだしてきます。逆に言うと、喘息とは診断もされなければ、ご本人もそんな認識がない方で、上記のような喉トラブルが起こる方は、喘息の可能性もあります。是非一度、呼吸機能検査や呼気中一酸化窒素濃度測定を受けて頂きたいです。平成29年初回は、論文の紹介ではなく、実地医の経験学です。

患者さんには気道と喉が発生学的に同じ起源と説明してきましたが・・・

喉は咽頭と喉頭に分かれています。咽頭は鼻腔や口腔の奥にある管状の部分で食道の入り口までで、上、中、下咽頭の3つに分けられています。また、喉頭は、咽頭と気管の間の部分で、吸い込んだ空気と吐く息の通路で、中央部に声帯があります。発生学的には咽頭は消化管に近く、喉頭は気管に近いようで、発生学的に類似しているとは言えないようですが、今はあまり言わなくなりましたがone airway, one diseaseと言って、鼻（上気道）も気管（下気道）もひと続きの気道（one airway）であるので、鼻アレルギー（鼻炎）も気管のアレルギー（喘息）もひとつの疾患（one disease）とする概念が以前からあります。鼻腔から咽頭・喉頭から気道にかけておそらく同じような機序で炎症が起こりやすいです。

喉の痛みの対処法

対処法としてマスクをする（特に濡れマスク）・飴をなめる（特に龍角散のど飴を患者さんは好みます）・龍角散を飲む・半夏厚朴湯（はんげこうぼくとう）、駆風解毒湯（くふうげどくとう）、桔梗湯（ききょうとう）などの市販されている漢方を飲む・抗生剤や消炎鎮痛剤を飲むといったことがあるのですが（漢方は駆風解毒湯以外は処方可能）、冒頭に述べたように喘息の患者さんに咽頭痛などの喉トラブルが多いこと、吸入ステロイドの導入・継続でその訴えが減ること、喉トラブルが再度出現するとそれ続いて咳や痰の増加が見られることから、当院では咽頭痛などの喉トラブルを喘息の急性増悪（町医者だより平成28年12月号参照）の一つの症状として捉え、早期に内服ステロイドを投与することで治療効果が得られています。